



温泉旅館編



犯された私

カレシに

親友の





親友のカレシに犯された私
～温泉旅館編～



私の名前は
佐伯姫子

その日は
大学のテニスサークルの
合宿で

郊外にある
温泉旅館に
みんなで来ていた

姫子はまだ
入っていないでしょ？

ホント
露天風呂で
サイコーだったわー

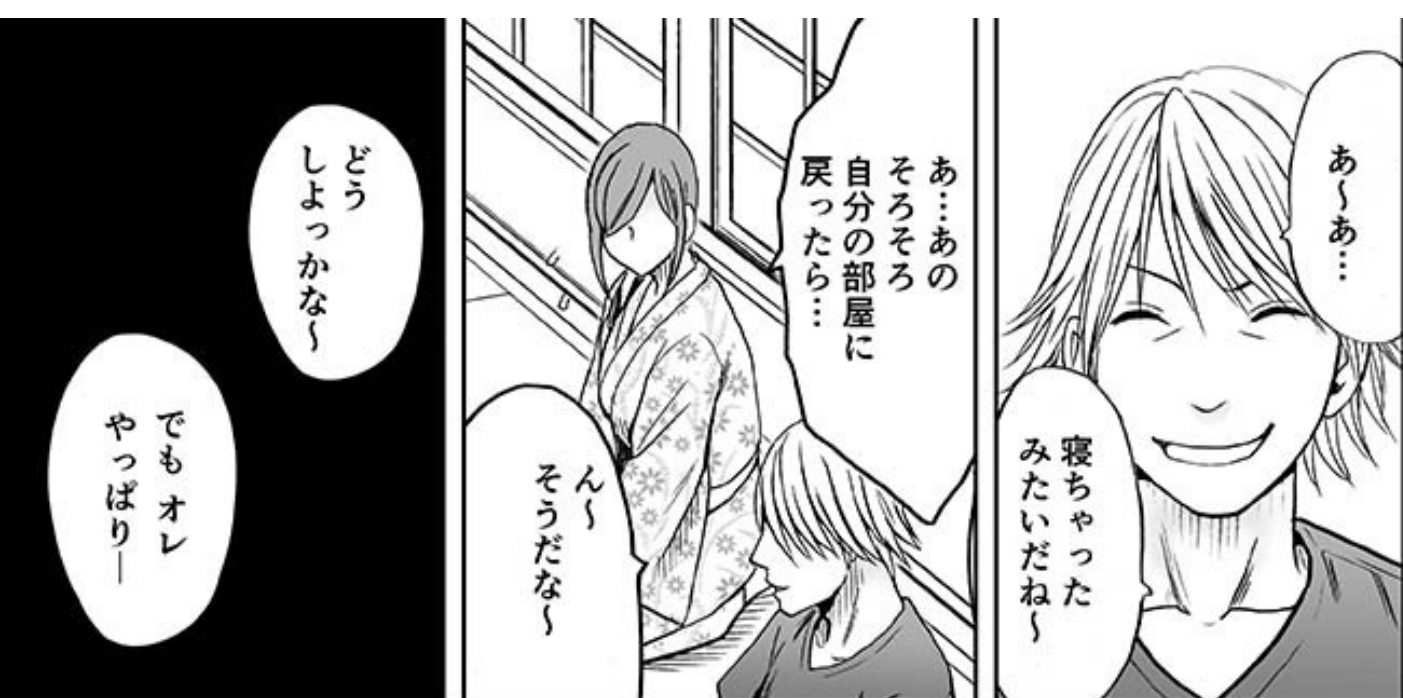
いやー
今回の合宿は
なんといっても
温泉だよねー

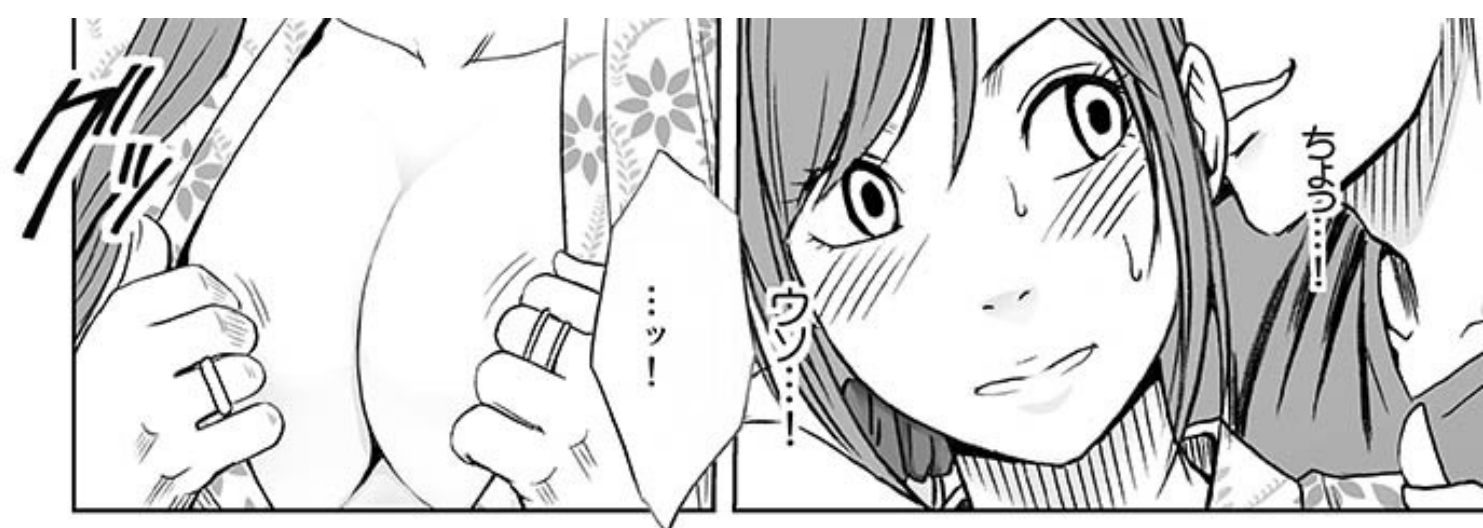
うん
あとで
入るつもり





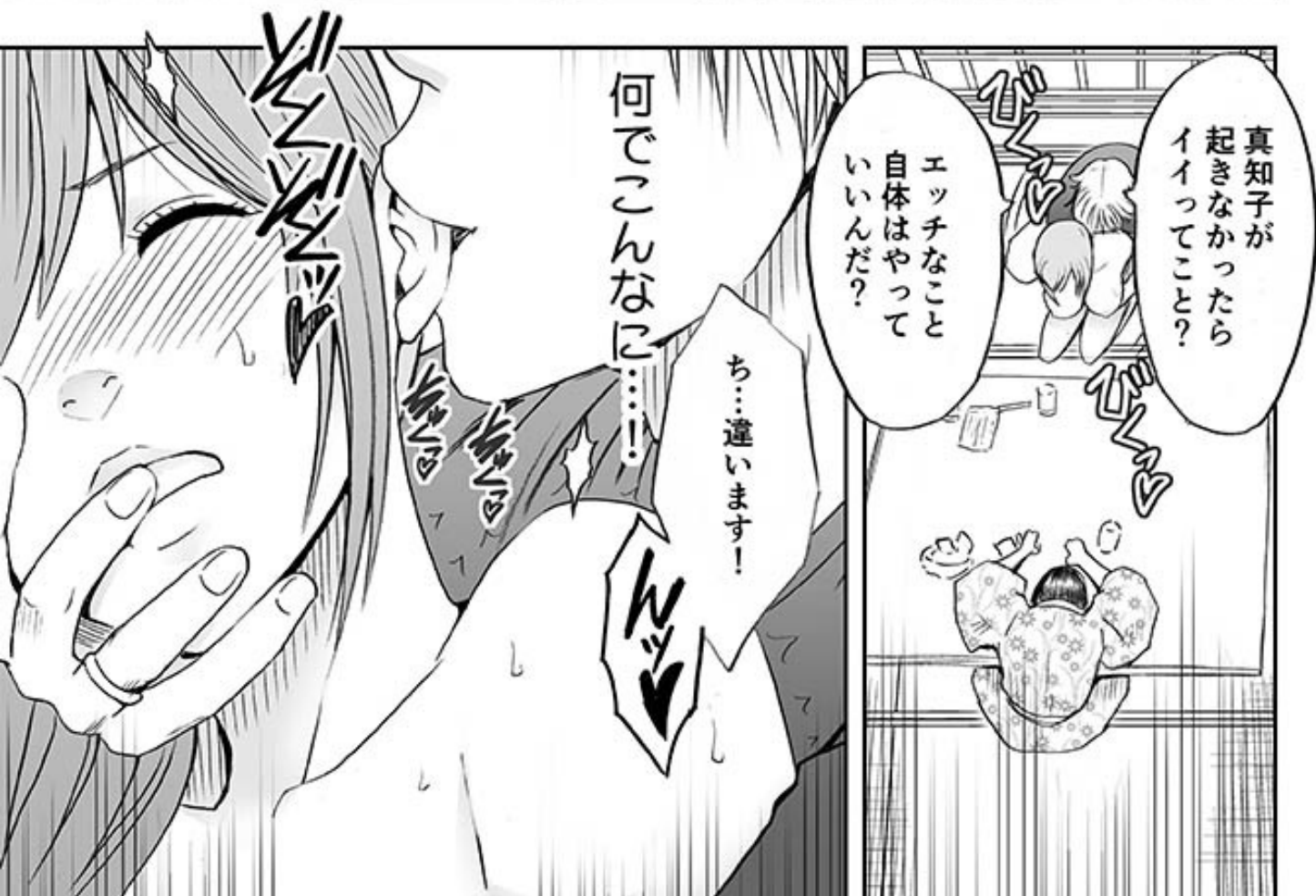












ダメ…！

これ以上させたら…！

んゝ
大丈夫大丈夫
ワスワス

姫子ちゃんがおっきい声出さなければ起きないから

私のカラダは…！

また…！

やっぱ
姫子ちゃん
敏感だねゝ

ひひひひ

ひひひひ



姫子ちゃんの
敏感エロエロボディ
なら

簡単に
イッちゃうでしょ？

こんなこと
ダメだって

分かんない……

……んんん







こんな最低の男に……!



悔しい……!

何でまた
こんな奴に……!

これ以上は
やばい……



そう思った私は
残った力と
抵抗の意思を
振り絞って

その部屋から
逃げ出した



いったん
温泉の女子更衣室に
逃げ込んで……



何とか
そいつの手から
逃げ切った私は

イカされて
火照ったカラダを
落ち着かせるために

どうしよう
部屋に戻る
わけでもないか...

真知子が起きるまで
しばらく
温泉でゆつゝ
してられないか...

この後どうするか
温泉にでもつきりながら
考えようとした
その時...



い…
いやです！

もういいです
から！
あ♡

びく
びく

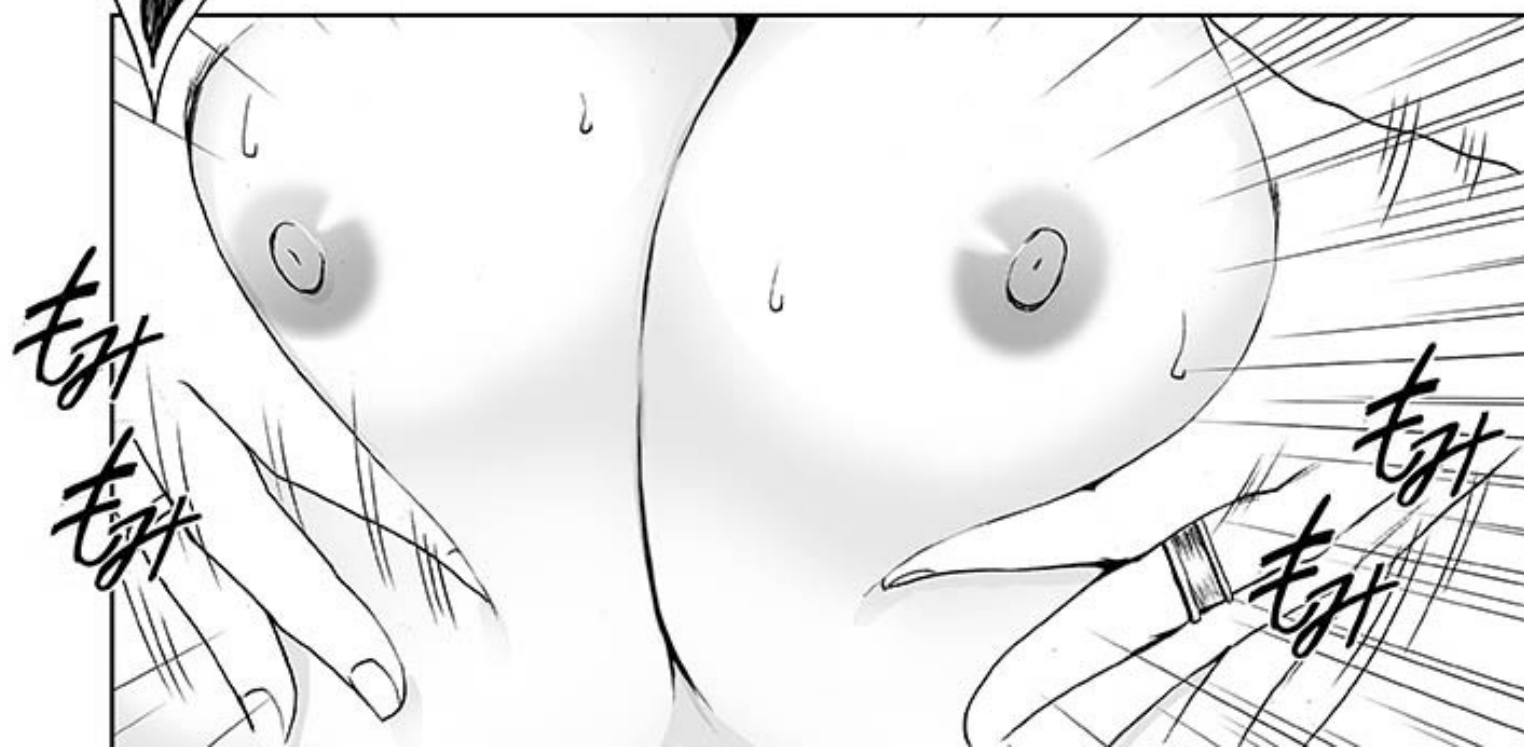
びく
びく

びく
びく
あ♡

そのまま
私は
強引に更衣室の奥に
押し込まれて

素っ裸にされて
責められはじめて





さっきは
イッてたんでしょ？

イカされて
気持ち良かったん
でしょ？

だったら
今度はオレの
番だよ？

オレも
姫子ちゃんのナカで
イカせてよ♪

じゃないと
不公平でしょ♪

ああーダメ！
そこは…弱いからッ！







突然
入り口のほうから

他のお客さんの
声がして

ウソ……
誰……!

同じサークルの
誰か?

こんなところ
見られたら……!

逃げ場のない
私たちは

あゝ
気持ちいいねゝ

じゃあ

やっぱ
夏の露天風呂は
いいよねゝ

温泉の奥に隠れる
ことになって……

ドキドキ





理性が
とびそうになる
ギリギリの
ところで

私は必死に
ガマンし続けてた

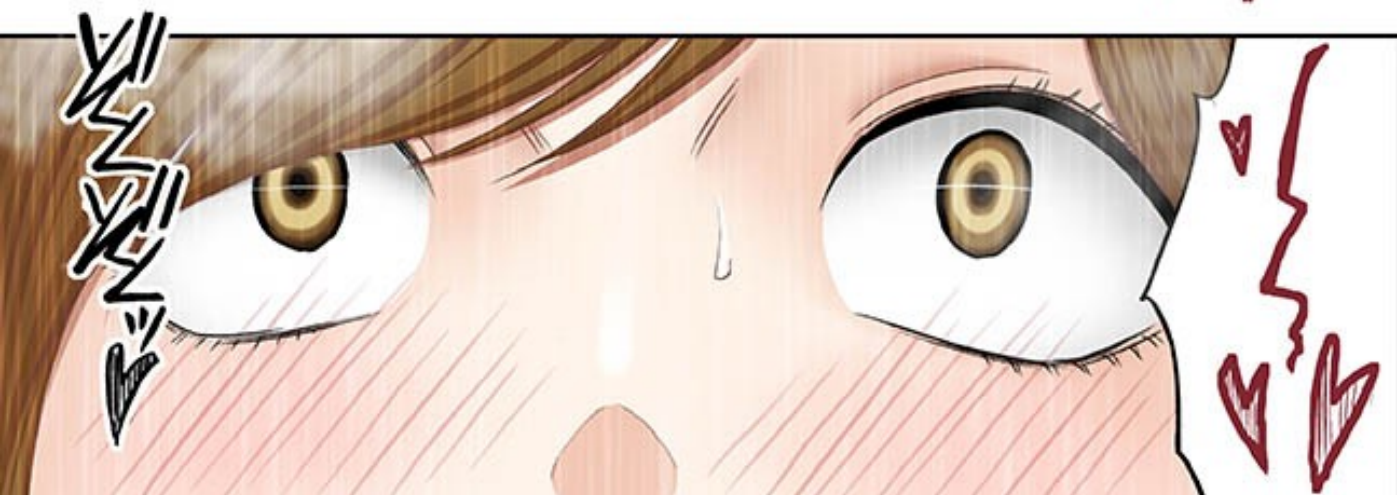
でも
女の子たちは
なかなかお風呂を
出て行かなくて…

また
静かにイカされ
そうになった

その時—









異常な
空間だった

露天風呂で
他の客が
近くにいる

他の客は
ゆったりお風呂に
つかつてる

男は
私を犯して
反応を
楽しんでる

はっ

んっ
もみもみ

ガ
ガ

ガ
ガ

私だけが

快感も声も
ガマンするのに
必死になってて

もみ
もみ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

そのまま
入れられっぱなしで
10分近く

女の子たちに
気づかれないように
ゆっくり挿入
され続けて

ゆっくり深く
挿入されることで

私は
今までに感じたことが
ないような感覚で
イカされ続けて







